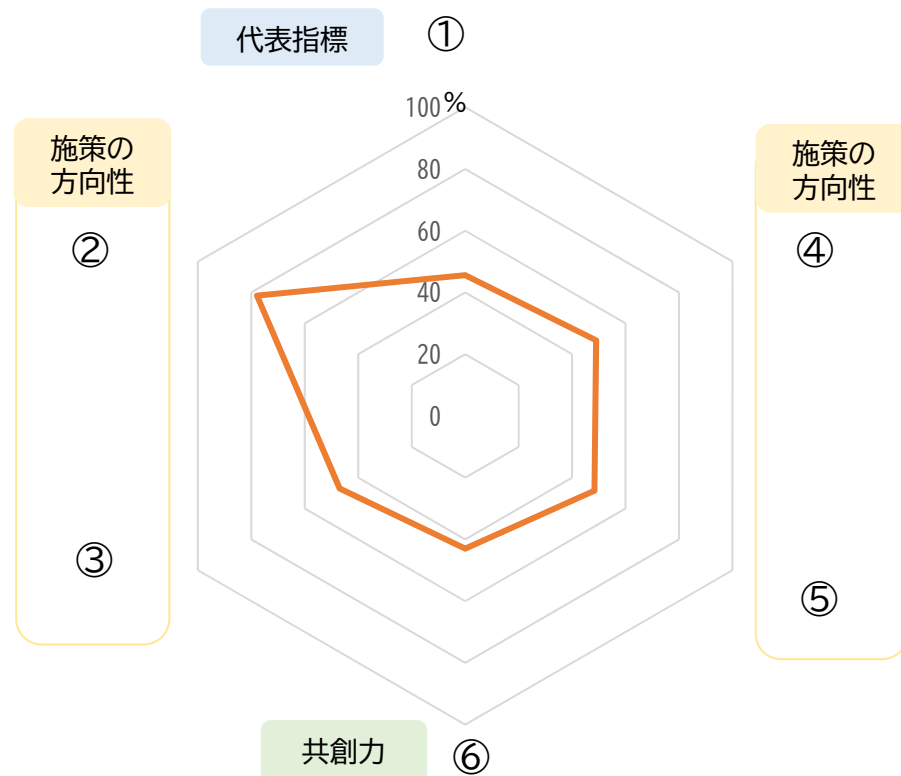


新たなひょうご環境指標の考え方

第6次兵庫県環境基本計画（仮称）では、施策分野ごとに定める2050年の望ましい環境のすがたの実現に向け、**施策の実効性を定量的に把握**するため「**ひょうご環境指標**」を設定する。

- 1 「**脱炭素・自然共生・資源循環**」の各分野の達成状況については、**俯瞰的な観点から点検・評価**するため、**レーダーチャートを用いて施策の進捗を可視化**する。また、**分野間の連関性を意識し、分野を横断する指標を選定**する。（表中**斜体下線**で表記）
- 2 「**健全・快適**」に関しては、近年、環境基準を概ね達成していることなどから、**継続して実績推移をモニタリング**し、健全・快適な環境が確保されていることを確認する。
- 3 「**共創力**」に関しては、「脱炭素・自然共生・資源循環」の各分野の**施策を推進する原動力**であることから、**分野ごとにその達成状況を確認**する。

レーダーチャートで読むひょうごの環境



【凡 例】

① 代表指標	望ましいすがたを端的に表す指標として設定
②～⑤ 施策の方向性	施策の方向性を具現化する指標として設定
⑥ 共創力	施策を推進する共創力を表す指標として設定

PDCAの手法

- 目標値は、計画の目標年次（2030年度）における数値とする
- 毎年度、定期的に取り組の進捗状況を点検・評価するとともに、必要に応じて見直しを行う

脱炭素

※2030年度目標は各個別計画から引用し、暫定的に作成
個別計画に指標がない項目は空欄、今後検討

望ましい環境のすがた

- (1) 自然環境の保全、地域環境と調和した再生可能エネルギー導入^②や水素の利活用などエネルギーの非化石化^③が進み、脱炭素社会が実現^①している
- (2) 交通・移動手段のゼロエミッション化^④や建築物の脱炭素化^{③④}により環境と共生するまちづくりが進んでいる
- (3) 日常生活では、消費行動における脱炭素型ライフスタイル^⑥が定着し、経済活動では、脱炭素経営^⑥を基本とし、サプライチェーン全体の脱炭素化が実現している
- (4) 地域資源を最大限活用しながら自立・分散型の社会を形成する「地域循環共生圏」が各地域で構築^⑤され、地域の活力が最大限に発揮されている

※右肩数字は指標と関連の深い項目と対応

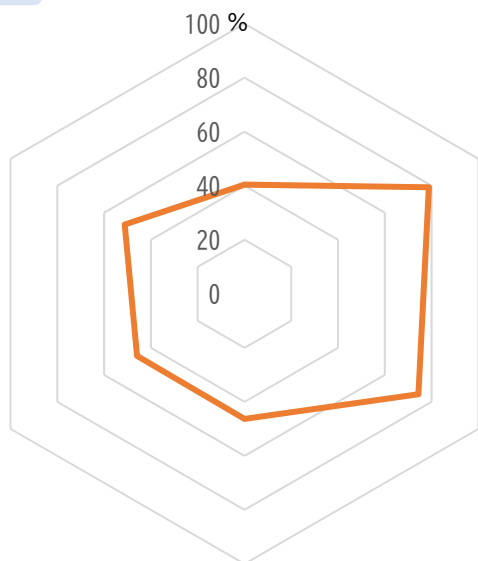
レーダーチャートで読むひょうごの環境

代表指標 ①温室効果ガス排出量の削減

エネルギー転換・
省エネ

②再生可能エネルギーの導入

③環境と共生する
まちづくり



共創力

⑥脱炭素経営・
脱炭素型ライフスタイルへの転換

CO₂の吸収・
固定・循環

④CO₂吸収・固定

⑤地域循環共生圏

項目	最新情報		達成率 (%)	2030年度 目標
	時点 (年度)	実績値		
代表 指標	① 温室効果ガス排出量の削減		40.4%	
	温室効果ガス排出量削減率(2013年度比)	R3(2021)	▲19.4%	40.4 ▲48.0%
エネルギー 転換・ 省エネ	② 再生可能エネルギーの導入		51.2%	
	再生可能エネルギーによる発電量(億kWh)	R4(2022)	51.2	51.2 100
	③ 環境と共生するまちづくり		46.0%	
	水素ステーション基数(累計)	R5(2023)	5	25.0 20
	新規登録車(乗用車)のうち次世代自動車の割合	R4(2022)	51.1%	
	上記のうちゼロエミッション車(EV・FCV)の割合	R4(2022)	4.3%	
	一般廃棄物排出量(千t)	R4(2022)	1,743	36.4 1,617
	オフィス・店舗等でのエネルギー消費量の削減(2013年度比)	R3(2021)	▲32.9%	76.5 ▲43.0%
CO ₂ の 固定・ 吸収・ 循環	④ CO ₂ の吸収・固定		78.9%	
	間伐実施面積(ha)	R4(2022)	146,915	78.9 186,300※1
	素材生産量(千m ³)	R4(2022)	593	※2 623
	漁場環境改善面積(ha)	R5(2023)	5,632	※2
	⑤ 地域循環共生圏		74.3%	
共創力	地域主導で行う再エネ導入に向けた取組件数(累計)	R5(2023)	62	62.0 100
	木質バイオマス発電用燃料供給量(千m ³)	R4(2022)	215	86.7 248
	⑥ 脱炭素経営・脱炭素型ライフスタイルへの転換		46.3%	
	RE100、RE-Actionへの参加事業者数(団体)(累計)	R5(2023)	16	32.0 50
	兵庫県地球温暖化防止活動推進員活動件数	R5(2023)	2,087	※2 2,000
	うちエコ診断受診件数(累計)	R5(2023)	13,115	65.6 20,000
	次世代人材育成プログラム参加者数	R5(2023)	207	41.4 500
	ひょうご環境体験館利用者数	R5(2023)	30,335	

※1 2031(R13)年度目標 ※2 評価方法は要検討

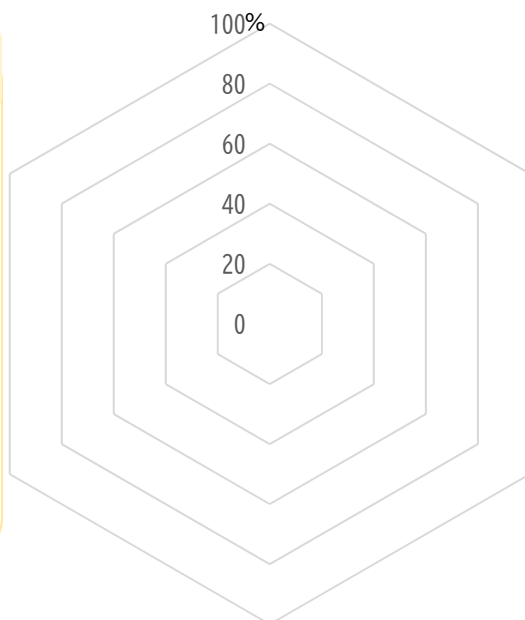
自然共生

望ましい環境のすがた

- (1) 生物多様性保全に対する県民の理解が深まるとともに、意識が高まり⑥、ネイチャーポジティブ(自然再興)①③が実現している
- (2) 野生動物の適正な保護・管理②③が行われ、人と野生動物が共生している
- (3) さまざまな担い手により、里地里山④・里海⑤が適切に管理され、豊かな自然とランドスケープが保全されている
- (4) 人と自然とのふれあいの場が充実⑥し、身近に豊かな自然や文化を感じることができる

レーダーチャートで読むひょうごの環境

代表指標 ①ネイチャーポジティブの実現

適正な保護・
管理②人と野生動物
の共生③外来生物対策
の推進豊かな
自然の確保④里地里山
の管理

⑤里海の管理

共創力

⑥人と自然のふれあいの場の充実

項 目		最新情報		達成率 (%)	2030年度 目標
		時点 (年度)	実績値		
代表指標	① ネイチャーポジティブの実現				
	県内における自然共生サイトの認定件数				
	県版レッドデータにおける「絶滅種」の新規発生数				
	お住まいの地域では、山、川、海などの自然環境が守られていると思いますか (%)				
適正な保護・ 管理	② 人と野生動物の共生				
	野生鳥獣による農林業被害額 (百万円)				
	③ 外来生物対策の推進				
	県内に新たに定着した特定外来生物の種類				
豊かな自然の 確保	アライグマ・ヌートリア捕獲頭数				
	④ 里地里山の管理				
	里山林整備面積(累計)(ha)				
	素材生産量(千 m^3)				
共創力	木質バイオマス発電用燃料供給量(千 m^3)				
	⑤ 里海の管理				
	漁場環境改善面積(累計)(ha)				
	⑥ 人と自然のふれあいの場の充実				
共創力	県立都市公園の年間利用者数(千人)				
	県内の自然公園年間利用者数(千人)				
	生物多様性保全プロジェクト認定件数				
	県立人と自然の博物館年間利用者数				
	次世代人材育成プログラム参加者数				
	ひょうご環境体験館利用者数				

資源循環

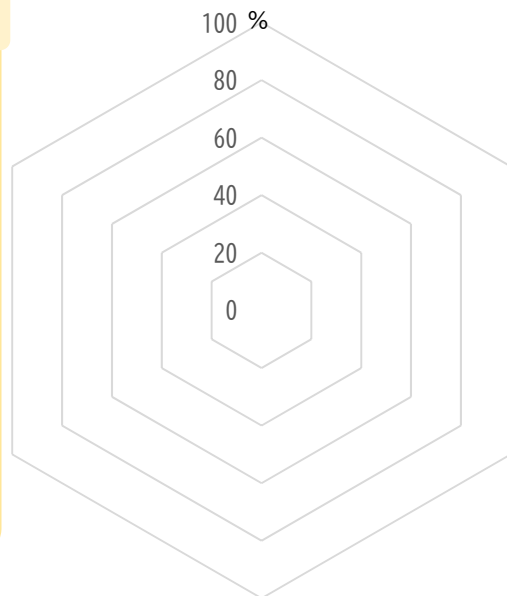
望ましい環境のすがた

- (1) 資源・製品の価値の最大化を図り、資源投入量・消費量を抑えつつ廃棄物の発生の最小化①につながる循環経済（サーキュラーエコノミー）が実現すると同時に、脱炭素社会の実現につながっている
- (2) 3R+リニューアブルなど資源循環②④⑥を徹底し、有効活用できない廃棄物は適正に処理⑤されている
- (3) バイオマス資源が地産地消③される地域循環共生圏が構築されている

レーダーチャートで読むひょうごの環境

代表指標 ①廃棄物の発生の最小化

資源の有効活用

②再生利用
の推進③バイオマス
資源の
利活用

環境負荷の低減

④廃棄物の
最終処分量
の削減⑤廃棄物
適正処理
の推進

共創力

⑥県民参加活動の推進

項目	最新情報		達成率 (%)	2030年度 目標
	時点 (年度)	実績値		
代表指標	① 廃棄物の発生の最小化			
	一般廃棄物排出量(千t)			
	産業廃棄物排出量(千t)			
資源の有効活用	② 再生利用の推進			
	一般廃棄物再生利用率			
	産業廃棄物再生利用率（汚泥除く）			
	容器包装廃棄物分別収集率 （収集実績量/発生見込量）			
	③ バイオマス資源の利活用			
環境負荷の低減	木質バイオマス発電用燃料供給量(千 m^3)			
	④ 廃棄物の最終処分量の削減			
	一般廃棄物最終処分量(千t)			
	産業廃棄物最終処分量(千t)			
	⑤ 産業廃棄物の適正処理の推進			
共創力	電子マニフェスト加入者数（事業者）			
	産業廃棄物の優良認定処理業者（事業者）			
	⑥ 県民参加活動の推進			
	クリーンアップひょうごキャンペーン参加者数 (万人)			
	次世代人材育成プログラム参加者数			
	ひょうご環境体験館利用者数			

健全・快適

○大気・水質・騒音等に関する各指標については、概ね環境基準を達成していることなどから、2030年度の目標については、これを維持する、あるいは達成していない指標についても達成に向け、着実に改善することをめざし、その実績推移をモニタリングする。

項 目		R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	・ ・ ・ ・ ・	2030年度目標
大 気	①環境基準達成状況					
	一般環境大気測定局 ・ 二酸化硫黄 (SO ₂)	100%	100%	100%		100%を維持
	・ 二酸化窒素 (NO ₂)	100%	100%	100%		
	・ 浮遊粒子状物質 (SPM)	100%	100%	100%		
	・ 光化学オキシダント (Ox)	0%	0%	0%		100%を目指し上昇
	・ 微小粒子状物質 (PM _{2.5})	100%	100%	100%		100%を維持
	自動車排出ガス測定局 ・ 二酸化窒素 (NO ₂)	100%	100%	100%		
	・ 浮遊粒子状物質 (SPM)	100%	100%	100%		
	・ 微小粒子状物質 (PM _{2.5})	100%	100%	100%		
	大気環境調査におけるダイオキシン類	100%	100%	100%		
	有害物質に係る環境基準達成状況	100%	100%	100%		
水 質	河川における生物化学的酸素要求量 (BOD)	100%	100%	100%		100%を目指し上昇
	海域における化学的酸素要求量 (COD)	69%	69%	77%		
	湖沼における化学的酸素要求量 (COD)	0%	0%	0%		
	公共用水域における健康項目	94%	94%	96%		100%を維持
	公共用水域における全窒素・全りん	100%	100%	100%		
	水質環境調査におけるダイオキシン類	100%	100%	100%		
	底質環境調査におけるダイオキシン類	100%	100%	100%		
音	自動車騒音測定（全時間帯(昼・夜)）	85%	89%	80%		100%を目指し上昇
ご み	②大規模不法投棄発生状況					
	10 t 以上の不法投棄事案の件数	4	3	1		ゼロを目指し低減